

理科(生物) 名古屋大学 理学部、農学部、医学部、情報学部
 (自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期) 1 / 1

<全体分析>

試験時間 情報学部－自然 1科目で75分
 情報学部－コン・ 医・理・農学部
 2科目で150分

解答形式

記述・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題が減少し、選択式の問題の出題が増えた。

その他トピックス

2022年度のノーベル生理学・医学賞の受賞テーマに関連する内容の出題があった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述 選択	人類の進化	生物	2022年度のノーベル生理学・医学賞の受賞テーマに関連する内容の出題があった。	標準
II	記述 選択 計算	線虫の刺激の受容	生物	設問(5)の b)については、系統1の結果から、ODR-7がジアセチルとピラジンの受容体の発現を促進すると考えられる。	やや難
III	記述 論述 選択	糖の輸送体・光周性	生物	設問(3)については、酵母がもつスクロースの輸送体を壊し、細胞外にインペルターゼが分泌されないようにして、細胞内でのみスクロースが分解できる状態にする。ここで、植物のスクロース輸送体を発現させると、スクロースを取り込めた場合だけ増殖できる。	やや難
IV	記述 論述 選択	代謝の経路	生物	設問(4) b', c' は増殖に必須であり、かつ d が必要であるので、酵素 B, C の活性を消失させてはいけない。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

単に知識を問われる問題の割合は低いですが、知識に基づいた考察問題も出題されるので、まずは教科書の内容を正確に習得することが大切である。また、文章が長く、内容も複雑なものも多いので、普段から、問題文はきちんと読むことを心掛け、問題集などを活用して実験・考察問題の演習を十分に行っておこう。